

令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立萩原小学校	学校 No.	2 1
-------	-----------	--------	-----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校では、『児童の優れた個性を伸ばし「美しい心と 夢と たくましく生きる力」を持つ萩原の子を育てる』を教育目標に、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざしている。福祉教育については、社会福祉への関心と理解を深め、さまざまな体験活動や交流を通して、「福祉の心」を育てることをねらいとした実践活動を行ってきた。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 『地域でのボランティア活動』

地域のチンドン祭りで、クリーンボランティア活動を行った。ごみを集めたり、ごみの分別を呼びかけたりして、地域の人と共に生きようとする態度や実践力を養った。

(2) 『地域行事への参加』

萬葉公演「ホタルの会」の方による「ホタルの学習会」を通して、ホタルについて学び、講師の方と共にホタルの幼虫の世話をするなど、地域の人々とよりよい人間関係を築こうとする心を育てた。

(3) 『お年寄りと交流』

1年生がお年寄りの方から昔遊びを教えていただいた。こま、あやとり、けん玉、お手玉、メンコなどで一緒に遊びながら楽しい時間を過ごした。お礼にメッセージ入りのお菓子をプレゼントした。思いやりや感謝の心を育てる有意義な活動であった。

(4) 5年生総合学習「ともに生きる」

① 福祉について考える

ガイダンスとして「福祉」に触れ、自分たちの興味や関心に応じて学習を進めた。児童が調べた概要は以下の通りである。

・手話	・車いすの介助	・盲導犬の生活と訓練
・点字	・点字ブロック	など

② 『福祉実践教室』

福祉実践教室では、「車いす体験」「手話・点字の体験」を講師の先生をお招きし、体験活動を行った。体験を通して、体の不自由な人にどのように接していけばよいかを学び、その苦労や大変さを実感することができた。

③ 福祉と共生について考える

福祉実践教室での実体験を経て、児童たちはそれぞれのテーマをより追究していくことにした。調べ考えたことを児童相互に意見交換し、各児童が「自分にできる福祉」について追究、発表することができた。

3. 福祉教育の成果と今度の課題

さまざまな活動や体験を通して、いろいろな立場・状況の人がいることや、誰もが一人ではなく共に生きていることを実感できたと考える。このような活動を体験や知識で終わらせず、社会の一員として、社会のために行動していこうとする態度や意識を今後も継続して高めていきたい。



令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立中島小学校	学校 No.	22
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目標
お年寄り、体が不自由な方や地域の方との交流を通して、自分たちに何ができるかを考えることで、豊かな心を育成する。

(2) 計画
地元老人会のお年寄りとの交流、あいさつ運動、運動会や学習発表会へのお年寄りの招待、各種募金活動、学校畑での栽培収穫活動など

(3) 推進体制
福祉推進委員会を組織し、具体的な活動の計画・立案等を検討して推進していく。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 福祉実践教室（6年生：6月）
6年生全員が、「車いす体験」「手話体験」「点字体験」を行った。また、車いすを使用している方や耳が聞こえない方、目が見えない方の話を実際に聞いて、福祉に関する意識を高めた。

(2) 例年特別養護老人ホームのお年寄りとの交流（3年生：中止）
施設を訪問して、歌や楽器の演奏をしたり手紙やペンダントをプレゼントしたりする活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

(3) 地元老人会のお年寄りとの交流会（1年生：11月）
地元のお年寄りからコマまわしやけん玉など昔ながらの遊びを教えてもらい、交流した。

(4) 募金活動（全校児童、保護者、教師：5月～3月）
緑の募金、赤い羽根共同募金を実施した。また、トルコ・シリア地震の被災者への募金活動を3月に行った。

(5) 学校畑での栽培収穫活動（全校児童、教師：4月～12月）
タマネギやジャガイモの苗植えや収穫を、地域の方の協力のもと、全学年で実施した。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

- ・ 6年生の児童が車いすの体験を行い、「車いすって、こんなに大変なんだ。」ということを感じることができた。また、手話や点字の体験も行ったので、体の不自由な方の苦労を十分に理解することができた。そして、体が不自由な方の話を聞き、福祉に関する意識を高めることができた。
- ・ 様々な体験学習を通して、体が不自由な方やお年寄りは、生活するうえで多くの不便があることを理解することができた。また、多くの活動を通して思いやりの心が育ち、福祉への関心が着実に高まってきた。
- ・ 世界には困っている人が多くおり、特にトルコ・シリア地震に際して、近隣に住むトルコの方から6年生がトルコの文化や日本との関係、今回の地震の被害などについてお話を聞く機会を設けた。そこで、児童会や委員会を中心にトルコの地震被災者への募金活動を行った。一人の力は小さいが、みんなで協力すれば困っている人の力になることを学んだ。
- ・ 障害の有無や社会的弱者などへの偏見にとらわれず、人と人々が楽しく助け合って生活できるように、今後も積極的に交流活動に取り組んでいきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋小学校	学校 No.	23
-------	-----------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

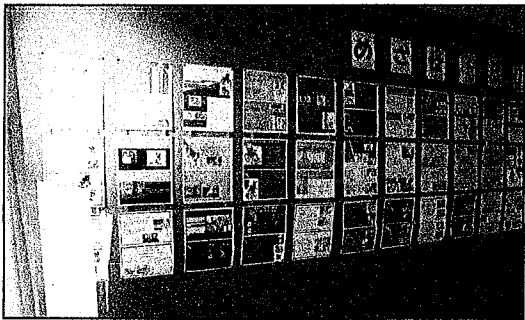
【目標】
福祉実践教育を通して、ユニバーサルデザインについて考えさせることにより、福祉についての関心を高めさせる。

【計画】
①車いすや手話について調べさせる。
②障害をもつ人の生活について考えさせる。
③福祉の大切さについて学ばせる。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

今年度は、福祉実践教室を行うことができた。
5年生が、車いすや手話の体験を行い、総合的学習の時間を使って、調べたりまとめたりすることができた。

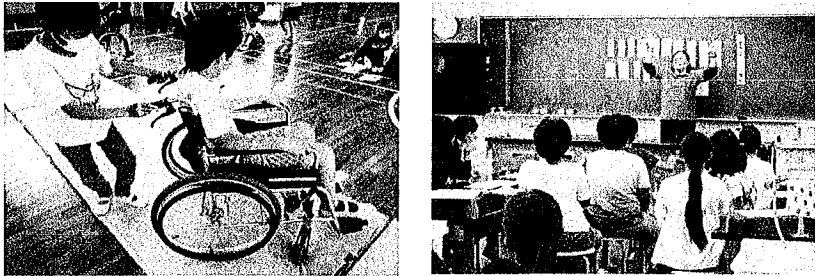
「福祉」についての意味を考えさせる時間を5年生の授業において設定した。また、調べたことをchromebookのスライドにまとめ、学習発表展で掲示し、学習の成果を全校や保護者に示すことができた。これらの取組により、福祉に対する関心を高めさせることができた。



【作品展での5年生の福祉に関する展

3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度は福祉実践教室を行うことはできたことで、「福祉」について考える際、体験をともなった学習をすることができた。ホームページや本、新聞など、活字から得る知識よりも、体験に勝るものはない。今後も福祉教育がさらに児童の実態に即したものになるように、計画の見直しや修正を進めていきたい。



【福祉実践教室の様子】

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和4年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立千秋南小学校	学校No. 24
-----	------------	----------

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（1）目標

本校は、「心身ともに健康で、確かな学力と豊かな心を持って、未来を拓く千南っ子を育てる。」を教育目標に日々の活動に取り組んでいる。豊かな心を持たせるために、6年生を中心に以下の目標を定めた。

（2）計画

社会福祉についての関心を高め、福祉についての実践力を育む。

① 福祉実践教室 ② 老人福祉施設訪問 ③ 人権週間 ④ ボランティア活動

2 福祉教育の具体的な活動の内容（活動の記録）

（1）福祉実践教室

福祉実践教室では、車いす体験と高齢者疑似体験を行った。障害に関する貴重な体験や交流は、福祉に対する理解を深め、自分たちにできることを考えるよい機会となった。

（2）老人福祉施設訪問

お年寄りに元気を届けることを目的に、プレゼント用として花の苗を購入し、水やりなどの世話を続け、春に老人福祉施設に届ける活動を行った。

（3）人権週間

11月25日（金）に、毎年恒例の「せんなんのわ」を運動場に作った。

「せんなんのわ」は全校児童が学年の壁を越えて、同じ誕生日の友達や誕生日が近い友達を知り、友達の輪を広げることが目的である。1月から12月まで月ごとに並んだ後は、日にち順に並ぶ。全校児童が誕生日順に並ぶことができ、大きな「せんなんのわ」を運動場いっぱいにつくることができた。友達一人一人を大切にし、いじめのない明るい学校にしていきたいという思いを強くもつことができた。

11月28日（月）には人権週間の取り組みとして、児童会役員主催の人権児童集会を行った。校長から「人権週間」について講話があり、その後児童会からのメッセージタイムが行われた。児童会役員による紙芝居の読み聞かせでは、一人一人かけがえのない命を大切にしていこうというメッセージを全校児童に伝えることができた。

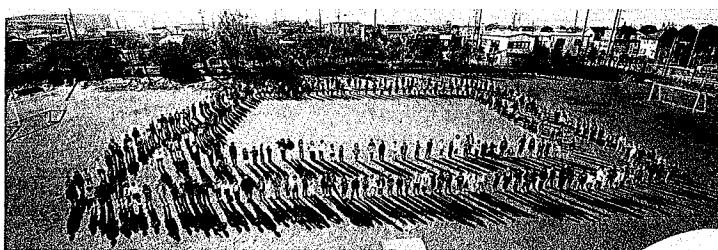
（4）ボランティア活動

① あいさつ運動 ・登校した児童から児童玄関前に並び、あいさつをした。

② 校内大掃除 ・学年で担当場所を決め、清掃活動を行った。

3 福祉教育の成果と今後の課題

人権教室やボランティア活動を通して、自分も友達も大切にすることや、ふわふわ言葉を実践することで、周りが幸せな気持ちになれることを体験することができた。困っている人には自然に手を差し伸べ、優しい言葉がけができる温かな人間関係を学校全体にさらに広げていきたい。また、福祉や人権について関心を高め、具体的な実践が広がっていくような場面や機会を学校生活の中に多く取り入れていきたいと考える。そして、全校の児童に、この活動の大切さを広げていきたい。



令和 4 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立富士小学校	学校 N o .	25
-------	-----------	----------	----

1. 福祉教育の取り組み

(1) 目標

- ・思いやりを深める活動を通して、人を思いやる心を育む。
- ・自分たちに何ができるかを考え、実践することで、豊かな心を育む。

(2) 計画

- ① 人権週間の取り組み（11～12月・・・全学年）
- ② さわやか運動（全学年）あいさつの呼びかけ
- ③ 見守り隊の方々へのお礼の手紙（2～3月）

2. 福祉教育の具体的活動の内容

(1) 人権週間の取り組み

人権週間に合わせ、思いやり運動を行った。

- ① 人権擁護委員の方々をお招きした人権教室
低学年、高学年の二部制で行い、発達段階に応じたお話や動画の視聴を通して人権に関する意識を高めた。
- ② 人権啓発を目的とした、道徳や学活の授業実践
- ③ 人権に関する標語の作成
全児童が参加して思いやりに関する標語を作成した。校内で選ばれた「探してみよう 人それぞれの いいところ」を印字したクリアファイルを作成。思いやりの言葉を身近なものにできるようにした。

(2) 福祉実践教室

5年生を対象に、福祉実践教室を行った。（担当学年主任アンケート要約）

【手話体験】 手話をするだけではなく、口の動きや表情の大切さ、相手のことを思いやり想像したりすることの大切さを学ぶことができた。

【点字体験】 目が見えない人の気持ちになって考えてみることを学んだ。点字の難しさ、生活の大変さを感じることで、この先の福祉についての学びに対する意欲が高まった。

【ガイドヘルプ】 子どもたちにとって、全く知らない世界だった。具体的にガイドヘルプの方法を教えてもらうとともに、その意味を知ることによって視覚に障害がある人の生活について考える機会になった。

(3) さわやか運動

毎学期、生活委員会が中心となってあいさつ運動を行い、さわやかにあいさつができるように呼びかけた。

(4) 見守り隊の方々へのお礼の手紙

本校は、登下校時に150人近くの見守り隊の方に毎日見守っていただいている。そこで、3月に全児童で感謝を込めて手紙を書き、見守り隊の皆さんに届けた。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

人権週間や、さわやか運動など全校での声掛けを行うと、子どもたちは素直に反応し、ふわふわ言葉を意識したり、あいさつの声が大きくなったりとよい変容を見せた。しかし、まだ、相手を思いやる心に欠ける行動や発言からトラブルになることもある。日頃の係活動や委員会活動、学級での活動など、学校の教育活動全体の中で、思いやりの心を育てることができるよう、取り組みを継続していく必要がある。



〈あいさつの様子〉



〈人権集会の様子〉